チリ共和国との震災教訓の共有（河北新報社「むすび塾」実施支援）

掲載日:2013 年 12 月 8 日　　(C)河北新報社

津波の恐怖 伝え続ける

チリ・コンスティトゥシオンで むすび塾

いのちと地域を守る

【コンスティトゥシオン（チリ）東野滋＝報道部】国境を超えて東日本大震災の教訓を共有し、備えに生かそうと、河北新報社は巡回ワークショップ「むすび塾」を6日（現地時間）、南米チリのコンスティトゥシオン市で開いた。同市は2010年2月のチリ大地震津波で大きな被害を受けた。宮城県内の被災者2人が震災の語り部として参加し、現地の被災者と津波災害の伝承をテーマに意見を交わした。

（30面に関連記事）

被災経験を振り返り、津波災害の伝承について意見交換した＝コンスティトゥシオン市

国際交流基金との共催で、海外開催は4月のインドネシアに続き2回目。南三陸町の農業後藤一磨さん(66)と石巻市の主婦佐藤麻紀さん(42)が語り部を務めた。

チリと日本は1960年のチリ地震津波＝?＝で被災した。祖母から津波の怖さを聞いて育った佐藤さんは震災時、自波が立つ海を見て非常事態を悟った。「『必ず山に逃げろ』という祖母の言葉を思い出し、家族と逃げた」と振り返った。

同市では60年当時の被災状況が十分伝承されず、津波の記憶は薄れていたという。10年の津波で4歳の長男を亡くしたソフィア・グティエレスさん(35)は「海から地獄が入ってきたと思った。子どもが再びつらい思いをしないよう、何が起きたのかを教えたい」と話した。

2010年発生 チリ大地震 被災住民と意見交換

進行役を務めた減災・復興支援機構（東京）の木村拓郎理事長は「後世の子どもたちのために脅威を伝え続けることが被害を減らすことにつながる」と強調した。

一行は同日、南三陸町の志津川高と交流がある同市のガブリエル・ミストラル校も訪問した。

?　チリ地震津波　1960年5月22日午後3時11分（日本時間23日午前4時11分）ごろ、南米チリ中部沖で発生したマグニチュード（M）9・5の超巨大地震。近代地震学の観測史上最大の地震で、揺れと津波でチリ国内で約2000人が犠牲になった。津波は太平洋を渡り、日本では約22時間半後の24日未明に到達。高さは三陸沿岸で5㍍前後を記録。岩手、宮城を中心に犠牲者は全国で142人に上った。